

第2回 これからの学校づくり検討委員会 議事録概要

| | |
|----|--|
| 日時 | 令和4年3月24日(木) 19:00~20:30 |
| 場所 | 桜蘭中学校 3階 視聴覚室 |
| 出席 | 別紙出席者名簿のとおり 市教委：教育長、教育部長、教育部次長、指導参事、河内指導主事、椎名指導主事、山口学校教育課長、坂口教育総務課長、松尾学務係長、山本教職員係長、船橋総務係長、土橋総務課主任、林総務課主任 |
| 内容 | <p>配布資料：委員会次第、室蘭の新しい学校の創造、第1回検討委員会ご意見への回答、義務教育学校の視察より（大滝徳舜警学校、大沼岳陽学校）、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて</p> <p>次第</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ オブザーバー紹介 ○ 市教委事務局からの自己紹介 ○ 市教委事務局からの報告等 ○ 市教委から小中一貫校視察報告（高田教育指導参事） ○ 赤川北海道教育庁胆振教育局教育支援課長講話 ○ 意見交換 ○ その他 <p>○ 市教委から小中一貫校視察報告（高田教育指導参事）</p> <p>＜市教委よりスクリーンへ資料を投影し説明＞</p> <p>○ 赤川北海道教育庁胆振教育局教育支援課長講話</p> <p>＜市教委よりスクリーンへ資料を投影し説明＞</p> <p>○ 意見交換</p> <p>○（高田参事から説明があった）極小規模と小規模というような児童生徒を抱えている学校や地域についてですが、4、50年前は、小中併置校という各地域に僻地複式学級などがありました。これは、地域の実情により、小さな学校をつくらなければならなかったのですが、室蘭という都市部の場合で考えていきますと、前回の伊藤教育部長による説明でありました、室蘭の学校の実情から考えますと、例えば小さい学校なら小学校、中学校を一校にしていくなどの一貫教育の方向もあります。実際に一貫教育という形で小中学校を併置に建てているのは、割合小さい地域です。室蘭の人口は減少傾向にありますが、それなりの規模をもっている地域ではありますので、実情を考えると、やはり今後の問題として考えていくことなのかもしれないということを今日の説明の中で切実に感じました。</p> <p>室蘭市の統合問題がスタートしましたが、現在は適正規模である12学級から18学級を下回る学校が多いということを前回の説明で感じました。統合により学校が無くなるのは寂しいと感じているし、地域を活性化させるためにも一校残して欲しいなどの希望もあります。一つの方法として、小中一貫教育は素晴らしい方法だと思いますが、全てが解決するわけではありませんので、前回の説明と本日の報告と併せて聞き、室蘭の実情の納得する部分と今後も課題となる部分があることが強く印象に残りました。</p> <p>○室蘭の今後として小中一貫以外の選択肢はあるのかと考えたときに、個人的な印象ですが、小中</p> |

一貫で進めていくのではないかと思います。個人としては、小中一貫で様々な取り組みがされており、基本的には良いことが沢山あるということが分かりましたので、小中一貫が良いと思います。例えば小さい学校ですと生徒数が少なく野球部がない場合に、小中一貫にすることにより人数が確保できるのであれば良いのではないかと思いますし、学校以外でクラブチームを作る保証をするなど、小中一貫校をつくった場合にどんな問題が考えられるのかという議論を進めていった方が良いという感想を持ちました。気持的には小学生に向きすぎていて、中学生にメリットがあるのか疑問に感じました。

○私も〇〇委員が仰ったように、賛成です。みなさんに義務教育学校しか選択肢が無いので賛成して下さいというような協議会ではございません。前回はお話しましたが、小学校同士を併せて適正規模を図りこれまで乗り越えてきましたので、次は横の関係ではなく縦の関係であるその地域にある小中学校を連携することでこういったメリットがあるのかということを考えていると思っております。しかし、縦の制度をつくることで全ての問題が解決するわけではございませんので、例えば、いじめの問題や不登校の問題など、あくまでハード面の問題や制度面の話であり、そういった問題には先生方の質や連携、あるいは地域の見守りや協力無くしてはできないことです。このような問題も含めて、小中一貫にすることでどのような効果があり、そして室蘭としてこういった学校を目指すのかということだと私は考えます。本日の中での話し合いでは難しいと思いますが、次回以降では、他市がすでに取り組んでいることで良いのか、あるいはそこに何かプラスするべきか、他市とは別に室蘭のやり方を行うのかということなどさらに深めて話し合えるのではないかなと思います。

○メリットがあるということは分かるので、私はデメリットの方を提示した方が分かるのではないかと思います。つくったときに起こりそうな問題を予想しそれに対する対策を考えていく方が納得しやすいと感じました。

○小中一貫をつくるのが素晴らしいという考えのみで話を進めていこうということではなく、実際に実践している地域では、いろいろな課題を経験し乗り越えながら行っていると思いますので、そういったことも踏まえながら議論していった方が良いと思います。

○結論的には、もう少し地域や保護者の方の意見を聞く時間を確保することができる場のつくり方を確保した方が良いと考えます。前回は少子化の話がされて、本日は大滝徳舜警学校の小規模校で良い教育がされていることを話をされ、最後には道教委の説明では、そもそも小中一貫を進めるならいとして適正規模少子化問題は主たるねらいではないところが多いという話があり、どこから出た話なのか不明瞭に感じました。少子化の問題も併せてなのか、室蘭が抱えている教育課題を解決するために小中一貫という選択肢はありえるのかという議論をするのであれば、そもそも学力やいじめの問題などの教育課題の把握に対して一般論の域を出ていないように感じました。室蘭市が抱えている教育課題に対する答が小中一貫なのか判断するのであれば、判断できる材料が揃っていないと思います。どのように議論して良いのか、不透明に感じますので、整理していただきたいです。第1回の説明が少子化から始まったので、どこが主たる議論の論点なのか分かりません。室蘭として地域に学校を残すことは大切な政策課題なので、それぞれが地域や保護者の元へ持ち帰り議論できるようにして、何を優先すべきなのかということをしっかり話し合った方が良いと思いました。

市教委：仰るとおりです。一般論で話をしてしまうと、不透明になり、先ほど真境名委員からもお話しがありました通り、小中一貫の良いところだけが強調されてしまっております。少子化ということも現在の室蘭の大きな課題ですが、前回もお話しましたように、いろいろな室蘭の課題もありますし、その中には全国共通としての課題もあれば、室蘭に重点的にある課題というのもあります。今目指していることは、室蘭に新しい学校をつくるなら、

どのような形が望ましいのかということについて皆さんから意見を伺いながらやりたいと思っておりますので、もっと具体的な話を進めていかなければならないですし、解決する方法が小中一貫教育なのかどうかということについては今後出てくるかもしれません。現実の課題として、例えば地域の活動では、地域の町会でも役員のなり手が少ないなどの課題が出てきておりますし、子どもたちは学校以外での活動が、コロナとは別に大変になってきています。室蘭の抱えている課題をどのようにすればいいか、学校・地域・保護者も協力していただき、さらには地域にとってプラスになるように、具体的な話になっていかないと、話しが進みにくいと思っております。阿知良委員が仰っていたように、それぞれ出てきていただいている団体からの意見もフィードバックして、さらに話が深まるような形ができれば良いと思っております。改めて検討させていただきたいと思っております。

○前回、学級数を増やすことよっての教育効果についての話し合いがありました。私は白鳥台の連合町会も行っておりますが、教育効果を上げていくためには、学校統合して学級数を増やすということを考えてましたが、今日のお話を伺い、子ども・保護者・地域の視点から学校づくりを進めていくということを聞き安堵しました。白鳥台も一時期は1万4千人いましたが、現在は6千人程度の人口です。前回の話では学校が無くなってしまわないかと心配していましたが、本日のお話を聞いて、白鳥台から学校が無くなるわけではないと知り安心しました。地域の高齢の方が、登下校の児童を見ていると元気になり涙が出るという方もいらっしゃいますので、このような話を聞くと学校があることによって、その地域でいろんな世代の人々が助け合って生きていくことができていると思いました。

市教委：子どもたちの教育環境を第一に考えていきたいと思っておりますが、2つの学校を1つにするという話だけではなく、先ほども申し上げましたが、縦の関係でも可能なかどうかということをご皆さんで深めていきたいと思っております。本日の話で、義務教育学校や小中学校連携について少しはイメージできたのではないかと考えております。赤川教育支援課長様から資料提供がございました、文部科学省の事例集等もお手元の方にあると思いますので、これは室蘭に合うかなど、照らし合わせて皆さんと考えていけたらと思っております。

市教委：前回、私の方から資料に基づきご説明させていただきました後に、学校統合などの形態の話のみに進んでしまわないかと懸念しておりました。現在子どもたちの中に生じている問題課題を解決するための方法として、まずどんな教育内容が良いのかというところまでお話をして議論させていただきたいと思っております。その後、教育内容や教育手法を実現するための学校の形態として、どのような形が望ましいのかということをご地域よっての違いも含め実情を踏まえ、順を追って今後の第3回目以降話し合いをさせていただきたいと思っております。

○本題とは関係ないことですが、時間設定と会場設定がもう少し座談形式の方が良いと思いました。いろいろなご都合があると思いますが、前回の会場の方が皆さんの顔が見えて、ざっくばらんに会話ができて良いと思いました。時間設定ですが、今後議論が深まっていく中で、21時~22時の時間帯になりますと皆さんにも影響が出てしまうと感じました。

市教委：次の検討委員会のイメージを持ってないまま閉会してしまい大変申し訳ございません。第1回と第2回はご説明することが多かったのですが、第3回目から第5回目では、19時から2時間程度、グループごとにテーマに沿ってお話し合いをしていただき、ご意見を頂戴し、一定程度の方向性が見えてくるとありがたいと思っております。

市教委：いろいろな団体の方や地域からお集まりいただいておりますので、それぞれの視点や考え

方があると思いますので、もう少し話しやすい雰囲気ができたりすることで、より深めていけるのではないかと考えております。先ほどもありましたように、テーマを具体化した
り室蘭にとって必要なことを、ある程度明確にできる話し合いが進めていけたらと考えて
おります。本日お配りした資料等を改めてご確認いただき、また次回以降さらにお話を深
めていけるとと思いますので、お忙しい中恐縮ですが、お時間のある時に目を通していただ
きたいと考えております。コロナにより延期が続いてしまい、大変申し訳ありませんで
した。今後は出来るだけテンポよく進めていけたらと思います。

<検討委員会終了>